

## 平成24年度の試験研究課題

本県では、日高地域を中心に冬季温暖な気象を生かした施設園芸が拡大し、野菜や花の集約的な栽培が展開されてきました。生産農家の大きな努力と行政や関係機関の支援があり、技術開発や技術普及組織も大きな役割を果たしてきました。

近年、農産物は業務用を主体に輸入が急増し、消費者から選ばれる商品としての性格を強めました。産地では安全・安心と高品質なブランド化が進められ、産地直売による産地消の推進や加工販売を取り入れた6次産業化など流通販売の形態も多様化しています。また、需要の減退等による市場価格の低迷、生産資材や暖房用燃料の高騰が生産者の経営を圧迫しています。

試験研究機関でも高品質・安定栽培技術だけでなく、省エネや低コスト化による所得向上技術、高齢化に対応した軽作業化技術、地域や関連産業の振興も含めた加工対応技術の開発など、試験研究の視点が拡大しています。

暖地園芸センターでは、地域特産の野菜や花きの新品種育成、栽培技術の開発を担当しています。特産品のブランド化技術に加えて、生産者の所得向上技術にも力を注ぎ、産地や地域の振興を支援したいと考えます。

### 平成24年度試験研究課題

#### 【育種部】

- ◎県オリジナル品種の育成と産地適応性
  - \*県の育成により県内生産者の種苗費を低減し、増殖・配布等の権利を県が保持します。
    - ・スターチス（ブルー、ピンク系）、バラ
    - ・エンドウ（ウスイエンドウ短節間品種）
    - ・シトウガラシ（高品質、多収）
- ◎新たな育種手法の導入
  - ・イオンビーム照射による変異誘発育種
- ◎優良種苗の維持・増殖
  - ・イチゴ、エンドウ、地域特産品目

#### 【園芸部】

- ◎暖地特産花き・野菜の安定生産技術開発
  - ・スターチスの生産安定・増収技術の開発
    - ①育苗時の高温回避技術
    - ②低温処理の補完技術
    - ③増収のための電照栽培技術
  - ・実エンドウの生育初期の高温障害対策
  - ・ミニトマトの裂果防止技術の開発
- ◎主要花き類の光応答メカニズムの解明（シュッコンカスミソウ等・共同研究）
- ◎業務用野菜の安定栽培技術開発
  - ・大莢エンドウ、レタスの適品種選定、省力栽培技術

（所長 吉本 均）



暖地園芸センタースタッフ  
（平成24年6月）